

(第3種郵便物認可)

# FC今治7発 ホーム戦有終

## JFL 流通経大を圧倒

サッカー日本フットボールリーグ(JFL)は4日、ありがとうサービス、夢スタジアム(夢スタ)で第14節1試合を行った。FC今治は流通経大ドラゴンズ龍ヶ崎に7-2で大勝。ホーム最終戦で有終の美を飾った。

FC今治は第2ステージ通算成績7勝4分け3敗(勝ち点25)。4日現在で第2ステージ3位、年間順位は6位のまま。

FC今治は桑島の4得点を含む大量7ゴールで大差をつけた。

夢スタ最終戦には3682人が来場、今季のホーム戦15試合の平均観客数は2182人となり集客目標の3万人は達成した。

次節は12日午後1時から、浜松市のホンダ都田サッカー場でホンダFCと今季最終戦を戦う。

【FC今治】流通経大ドラゴンズ龍ヶ崎【前半8分、2点目を挙げ喜ぶFC今治・桑島(左)とイレブン】ありがとうサービス、夢スタジアム



【流通経大】  
岡崎 浩司(山崎 隆樹)  
西広 黒川(小園 小次郎) 10 3 16 6  
GK DF MF FW GK FK SH  
川野 岡田(尾崎 誠) 5 2 4 17  
今中(小) 長 桑 長 三 上  
【FC今治】  
▽交代(今) 可児(上村) 楠美(長  
島 金子(長尾) 【流】 アベ(黒  
沢 金(山口) 新 家(園山)

緑の芝生の上、青いユニホームとボールが躍った。「FC今治の本当の姿を見せよう」と試合直前に吉武監督から一言。呼応するように、イレブンはJFLの荒波にもまれて成長した姿を、ホーム最終戦に集まったサポーターに見せつけた。



# 原点回帰 「楽しさ」追求

前回対戦は開幕戦で終盤にミスから失点し2-2の引き分け。「今季を象徴するゲーム」(吉武監督)だった。

しかし、ホーム最終戦は高め続けた攻撃への意識が見事に形になった。「相手は高い位置に選手が多かった」と片岡。イレブンは相手の3バックの隙を突き、持ち味の左右への展開に加え、縦の素早い攻めも狙った。ゴール前ではワンタッチパスが動きに合わせてつながった。

第2ステージに入り判断力、技術が少しずつ向上。ゴール前で「誰でもシュートを打てる状況」(吉武監督)を意図的につくり出せるようになった成果が前半5得点につながり吉武監督は「最高の出来」と評価した。

前節J3昇格が消滅し残り2試合をどう戦うか。イレブンは「感動と笑顔をもたらす」クラブの原点に立ち返り「楽しませる」サッカーを目指した。「自分たちが楽しんでサッカーをできれば結果も付いてくる」と上村が試合前に語っていたように、全員がゴールに向けて進み何度も観客を沸かせた。ハットトリックを達成した桑島は「楽しませようと、どんな欲に狙った」と笑顔だった。

次節は昨年王者で現在首位のホンダFCとの最終戦。来季を占う上でも重要な一戦に吉武監督は「王者に対して1年間の成長を出せるかどうか。大暴れしてもらいたい」。(長谷川悠介)

▽第14節

FC今治	7勝4分け3敗(25)	流通経大	ドラゴンズ
7勝4分け3敗(25)	7(5)0	3勝5分け6敗(14)	3勝5分け6敗(14)

▽得点者(今) 桑島4、中野、長尾、三田(流) 滝、新 家  
▽観衆 3602人

【評】FC今治は流動的な攻撃が機能し大量得点を挙げた。前半2分、上村、長尾とつないだパスをワンタッチで桑島が決めて先制。8分と25分にも桑島が得点したほか、中野、長尾がゴールネットを揺らし前半で5-0と大勢を決めた。後半は2失点したが2得点。計17本と相手の3倍近いシュートを放って圧倒した。

前半は最高の出来  
FC今治・吉武監督の話 アグレッシブな守りやゴールやボールに向かっていくプレー

が随所に見られ、前半の5-0は最高の出来。後半は(気持ちの入った相手も)もう少しかわすようなプレーができればよかった。経験や技術下回る流通経大ドラゴンズ

龍ヶ崎・中島監督の話 連敗中で開き直って戦おうとしたが、経験、技術などで下回った。前を向き、アバウトでも背後を狙うようにさせたが、FC今治の圧力もあり思うように展開できなかった。



FC今治のホーム最終戦で勝利を喜ぶサポーター＝4日午後、ありがとうサービス、夢スタジアム

# 青い声援 夢スタ 3600人

FC今治の今季ホーム最終戦となった4日、夢スタには約3600人が集まり、最後まで「全力で駆け抜けろ」とイレブンを後押しした。

最終戦は開場の午前10時から1000人以上が並んで列をつくり、飲食ブースや大型ビジョンを使ったアトラクションなどを用意した「フットボールパーク」も盛況で、ゲストの登場も試合に花を添えた。

ゲームは序盤からFC今治ペースで進み、得点のたびにスタンドは歓喜に沸いた。最後はサポーターがクラブのロゴ入りタオルを掲げスタジアムは青に染まった。7-2の大勝に昨年からの応援している松山市の会社員、上田亮介さん(28)は「迫力ある試合でよかった。あらためて良いチーム。来年はぜひJ3」。

来年はぜひJ3

試合後、観客を見送り感謝を伝える岡田武史オーナー(右)は4日、ありがとうサービス、夢スタジアム(撮影 岩間功祐)

ホーム最終戦のセレモニーでは吉武博文監督が「調子が良くても不振でも声援をもらいたい。ありがとう」と感謝。「敗戦後の温かい声援が一番思い出に残っている。来年も同じ霧囲気の中で以上の声援をお願いしたい」と呼び掛けた。

握手や記念撮影でサポーターを見送った岡田武史オーナーは、会場で「来てくれた観客には喜んでもらったが、満員にできずまだまだ力のなさを感じている。来年のキックオフになると思うが(サッカーの)現場も運営スタッフももっとプロフェッショナルにならなければ」と話した。(長谷川悠介)

